

里山社会における幸福度の調査研究

○東北工業大学 学生会員 菅野 稚絵
東北工業大学 フェロー会員 今西 肇
山形県西川町 後藤 忠勝

1. はじめに

従来の日本のまちづくりは、量的にかつ均質的に整備されてきた。しかし、少子高齢化や地方の過疎化が進む現代においてのこれからのまちづくりは、その地域の個性を活かしたまちづくりが重要であると考え。山形県西川町は、平成 25 年度第 6 次西川町総合計画において町の良さ、楽しさを確認するための取り組みとして「西川版幸福指標の創設」を掲げている。そこで本研究では、西川町役場の協力を得て西川町民を対象としたアンケート調査を実施し、幸福であると感じる要因の 1 つである『いきいきとする気持ち』に着目し、年代別の幸福度について考察した。

2. 調査方法

西川町で行われた、4 つの町民向けのイベントの来訪者 20 代から 90 代を対象に、無記名自記式調査用紙を配布し、262 件のサンプルを収集した。アンケート調査の回答項目を表-1 に示す。

表-1 アンケート調査の回答項目

	項目	設問
個人属性	性別	選択
	年代	記入
	同居人の有無	選択
	同居人の種類	選択、その他(記入)
	住居	選択、その他(記入)
	職業	選択、その他(記入)
いきいき	いきいきと感じるとき	選択、その他(記入)
	いきいきと感じるとき感じない時	選択、その他(記入)
周囲との関係	人間関係	5段階評価
	経済状況	5段階評価
	仕事環境	5段階評価
	生活環境	5段階評価
満足度	満足度人生における満足度	グラフ記入

3. 調査結果

図-1 にアンケートの回答者の年代別割合を示す。20 代、60 代、90 代は 10 人未満と少ない結果となった。今回の分析では、回答者の世代を労働力の中核をなす 15 歳以上 65 歳未満の生産世代と、年金を生活の主な収入源としているシルバー世代の 2 つに分けた。

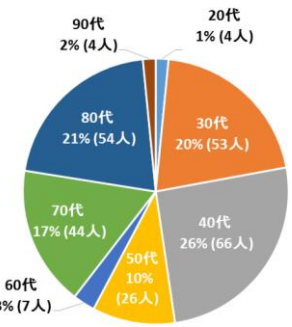


図-1 回答者の年代別割合

表-2 はいきいきと感じるとき、いきいきと感じないときのアンケート項目を示す。

表-2 いきいきと感じるとき、感じない時のアンケート項目

No.	色	キーワード	いきいきと感じるとき	いきいきと感じない時
①	青	食	美味しいものを食べた・お腹が満たされたとき	美味しくないものを食べたとき・空腹時
②	赤	ストレス	よく眠れた・リラックスしているとき	寝不足・疲れがたまっているとき
③	紫	恋愛	恋・異性との交流	失恋したとき
④	黄	収入	収入を得る・経済的に余裕があるとき	経済的に余裕がないとき
⑤	緑	物欲	ものを買うとき・手に入れたとき	欲しいものが手に入らなかったとき
⑥	茶	健康	健康であると感じるとき	健康が損なわれたとき
⑦	水	日常生活の変化	新たなことに挑戦するとき	毎日の同じことの繰り返し
⑧	黒	運動	運動しているとき	体を動かさないとき
⑨	白	趣味	趣味をしているとき	無趣味・趣味に時間を費やせないとき
⑩	黄	個人の時間	一人の時間を過ごすとき	孤独な時間を過ごすとき
⑪	緑	承認欲求	他者に認められたとき	他者に認められないとき
⑫	青	人間関係	友人と会う・関係が良好なとき	友人関係がうまくいっていないとき
⑬	赤	家族との関係	家族との交流	家族とうまくいっていないとき
⑭	紫	仕事	仕事をしているとき	仕事が終わったとき
⑮	黒	その他		

図-2 は世代別のいきいきと感じる行動項目の割合を示しており、生産世代で最も割合が多かった項目は『①食』、シルバー世代は『⑥健康』であった。

図-3 は世代別のいきいきと感じない行動項目の割合を示しており、生産世代で最も割合が多かった項目は『②ストレス』、シルバー世代は『⑥健康』であった。

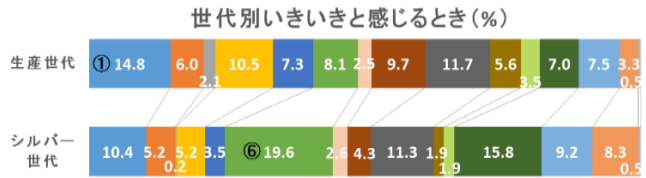


図-2 世代別のいきいきと感じる行動項目割合

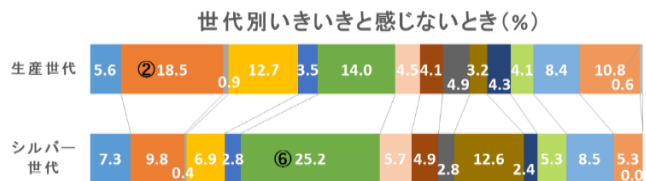


図-3 世代別のいきいきと感じない行動項目割合

図-4 はいきいきと感じる割合の世代間の差を示す。シルバー世代と比べ生産世代の割合の差が大きい項目として順に『⑧運動』、『④収入』、『①食』が挙げられる。また、生産世代と比べシルバー世代の割合が大幅に大きいものとして『⑥健康』、『⑫人間関係』、『⑭仕事』が挙げられる。

図-5 はいきいきと感じない割合の世代間の差を表す。シルバー世代と比べ、生産世代の割合の差が大きい項目として、順に『②ストレス』、『④収入』、『⑭仕事』が

挙げられ、生産世代と比べシルバー世代の割合が大幅に大きいものとして『⑥健康』、『⑩個人の時間』が挙げられる。

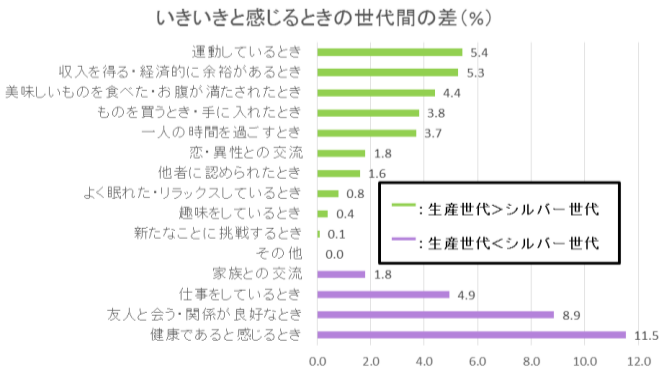


図-4 いきいきと感じる時の世代間の差

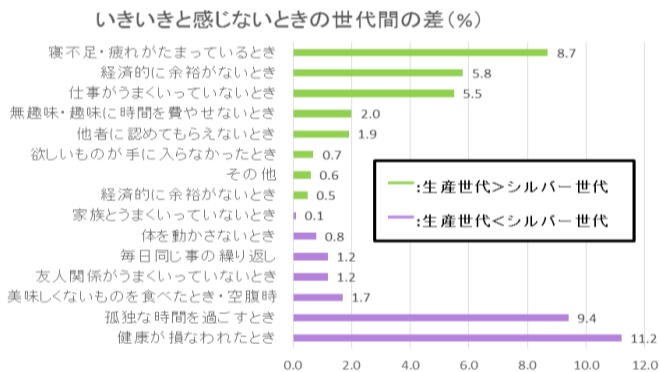


図-5 いきいきと感じない時の世代間の差

4. 考察

各行動項目の関心度を示すグラフを図-6 のように作成し、①、②、③、④の領域に属する各年代の関心度評価を行った。また、図-7 は主な項目として、『②ストレス』、『⑥健康』、『⑩人間関係』、『⑭仕事』の年代の変化を伴う関心度の変化を示した図である。

シルバー世代は生産世代に比べ『⑥健康』、『⑩人間関係』、『⑭仕事』にはプラスイメージの関心をもっており、『⑧運動』、『④収入』、『①食』には関心を持っていないと考える。一方、シルバー世代は生産世代に比べ『⑥健康』、『⑩個人の時間』にはマイナスイメージの関心をもっており、『②ストレス』、『④収入』、『⑭仕事』には関心を持っていないと考える。これらのことから次のことが言える。

(1) ストレスについて

生産世代はストレスが大きいときに関心が高く、年齢が上がるとともに関心がなくなる。

(2) 健康について

生産世代は健康状態に関心がなく、年齢があがると

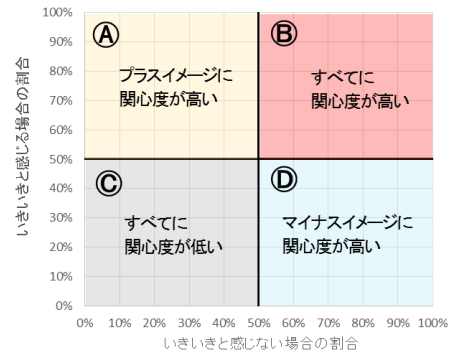


図-6 各行動項目の関心度

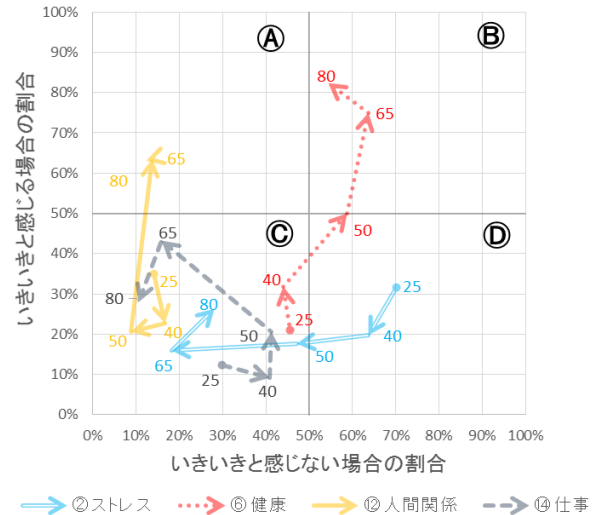


図-7 主な関心度の年代変化

ともに健康状態に関心が高くなる。

(3) 人間関係について

生産世代は人間関係に関心がなく、年齢があがるとともに人間関係が良好なときに関心が高くなる。

(4) 仕事について

生産世代もシルバー世代も仕事に関して関心がないが、シルバー世代に比べ生産世代は仕事もうまくいっていないことに関心がやや高く、生産世代に比べシルバー世代は仕事をしていることに関心がやや高くなる。

従って西川町では、生産世代はストレスの負荷が、シルバー世代は友人関係の良好さと健康状態の良し悪しが、幸福に大きく関与する項目であることがわかる。

あとがき

本研究は「西川版幸福指標の創設」のための第一歩である。今後は幸福指標の数量化や、都市部や被災地との幸福度の比較を目指す。

本研究にあたり西川町里山社会・文化研究所、西川町役場の皆さまにご協力いただき、感謝の意を表します。

参考文献

- 1) 山形県西川町：平成25年度第6次西川町総合計画